

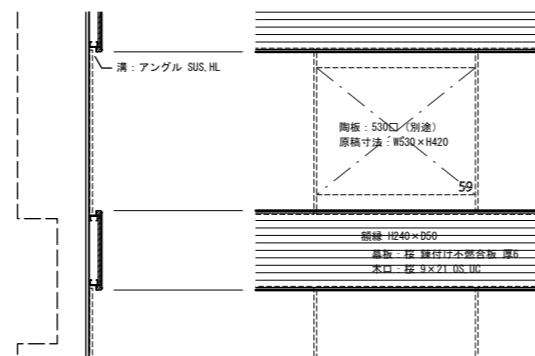
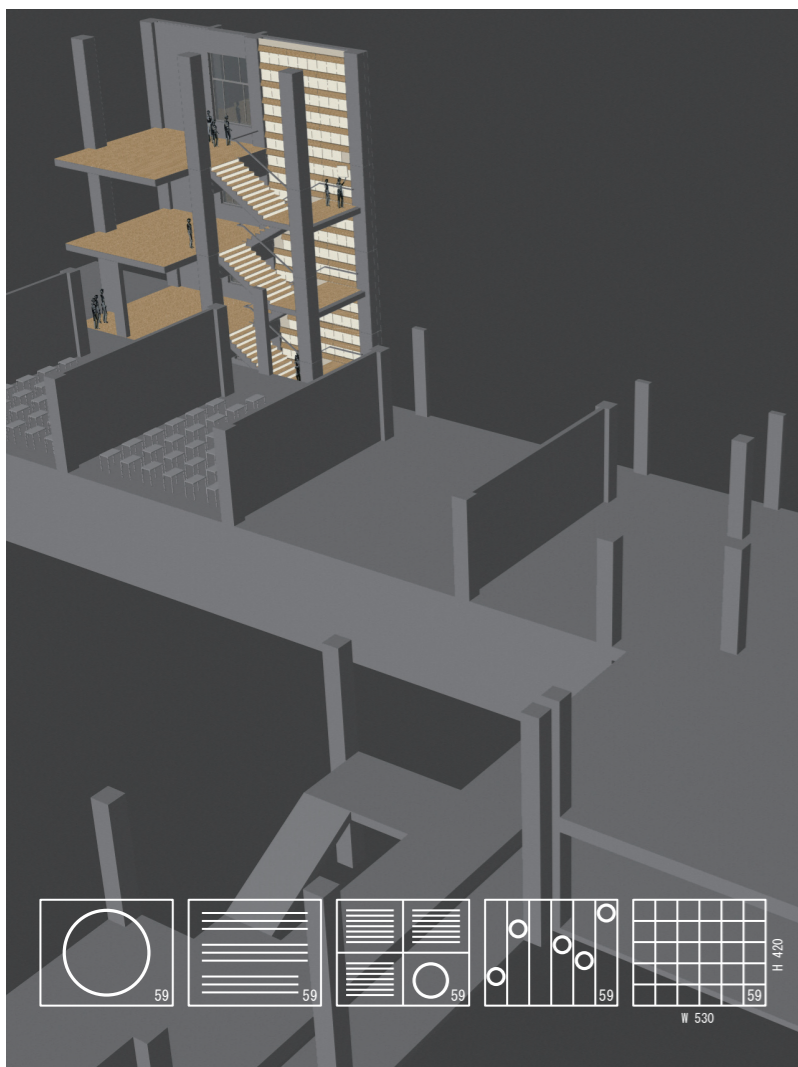
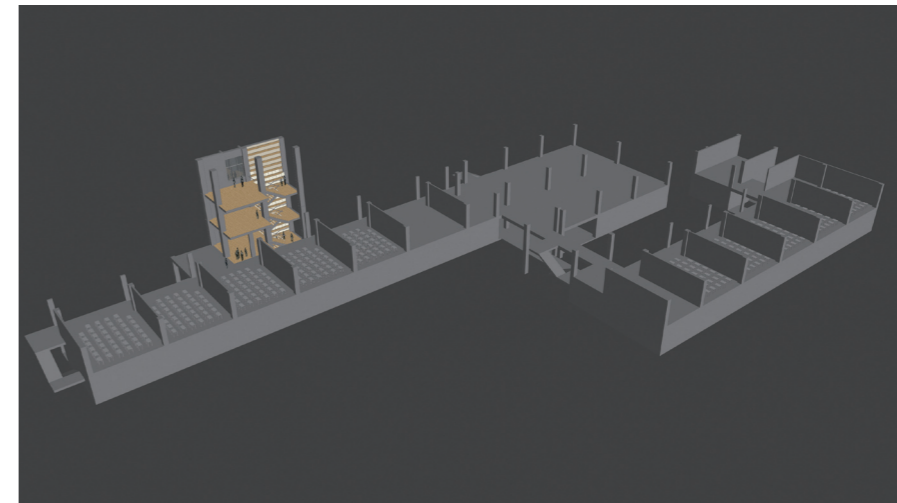
正門をくぐり、長い並木道の先にあらわれる印象的な階段室の塔。このデザインは現在建替え計画の進む新校舎にも受け継がれ、附設高等学校が当地へ移転した当初からの面影を残す唯一の建物となる。本提案は、その階段室の壁一面にストライプ状の額縁を設置し、毎年の卒業生が残した記念のパネルを順次取りつけていく計画である。

附設のシンボルともいえる塔が、ただ外観の保存にとどまることなく、学校の歴史を蓄積する展示スペース、あるいは生徒たちが将来に向けさまざまな思いをめぐらす場、すなわち「思考廻廊」として再生し、より積極的に活用されていくことを期待している。

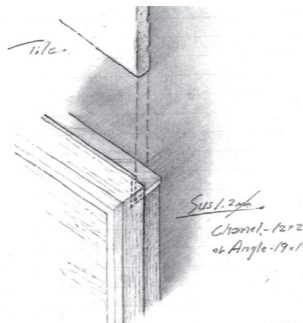


思考廻廊

— 60m超の額縁 —



額縁構成図



将来は、この工場で陶板が制作され、階段室の壁面に新たな年輪が刻まれることを期待したい。

左図下は展示パネルの画面構成例を示す。



写真3：陶芸教室棟

計画概要

1. 階段室の北、2階から5階にかけての壁面に、横長の額縁を連続して設置する(写真1、配置図)。これは卒業記念パネルをはめ込み、下段から順次積み重ねていくためのもので、壁全体を使って約100年間の展示を想定している。
なお、ストライプ状のデザインは、成長の跡を刻み続ける「年輪」のイメージを重ねあわせたものである(写真2)。
2. 約60cm×60cmのパネルにはタイトルの位置等一定の書式だけを指定しておき、画面構成や内容は卒業生の手で自由に表現してもらう。記憶に残る言葉、寄せ書き、後輩へのメッセージ、スケッチ等。パネル素材はステンレス等各種考えられるが、附設特有のカリキュラムでもある陶芸教室において制作された陶板を用いれば、より理想的であろう(写真3)。
3. 額縁の仕上げ材は天然木を基本とする(ただし内装制限あり)。また壁面から約4cm張り出した額の上端、下端には金属製の溝を設け、確実に容易なパネルの取付けに配慮している。
(陶板の場合は壁に接着のうえ、額を押縁とする。要技術検討)
4. 各パネルには毎年贈呈される記念品の目録(作品名、写真等)を添え、その全体配置図を玄関ホールに掲示することにより、校舎全体に散りばめられたアート作品の案内板とすることも可能である。
5. パネル制作は、新校舎完成以降の卒業生を対象とするか、または過去59年間に遡って参加を呼びかけるのか等、展示方法の詳細については引き続き検討が必要である。

その後の経緯

- 注-2. パネル材質については、現時点において陶芸教室での手造りは困難と判断。メーカーの協力を得て、磁器タイルに画像を転写する技法を採用する。
- 注-3. 溝は将来に備え、陶板の厚みにも対応できるように奥行きに余裕を持たせる。
- 注-5. 同窓会総会、世話人会を通じ、1~58回生の参加についても同意が得られ、「思考廻廊推進委員会」発足。



写真1：アプローチの並木道

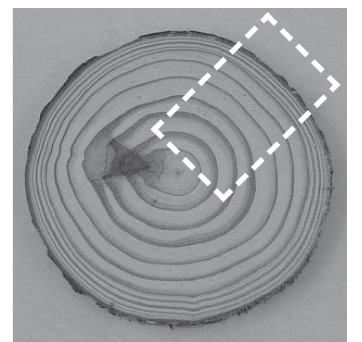


写真2：年輪

